

平成 28 年 7 月 2～3 日と宿泊で、第 3 回富士山支部勉強会が静岡県の朝霧高原にて行われました。ジャングルカンファレンス協会と共催で行われ、医師、看護師、作業療法士、薬剤師などコメディカルや、大学教授、鍼灸、ヨガ、リラクゼーション関係など約 50 名集まり大盛況のなか行われました。

ジャングルカンファレンスとは、一般的な医療従事者によるカンファレンスと違い、地域の様々な分野で活躍する治療家が集い、1つの疾患に対する治療アプローチ、見解を共有する場です。今回は“首が回らなくなってから耳が聞こえづらくなった患者”があがり、「首のコリが耳や目、脳のトラブルに関わることもある」、「頸椎静脈叢には静脈弁がないためうっ滞しやすい」、「足のアライメントを整えると首が回る」など、多様な意見がでました。単に診断名を当てるものではなく、それぞれの専門から発言しあうことで新たな気づきが生まれ、自分の考えや行動などを深くかえりみる内省につながりました。

自然欠乏症候群の講義では、“人は自然から離れることで、体や心の病気を発症する割合が増える”とありました。特に都市型生活では、電子音で目が覚め、アスファルトの上を歩き、空調完備のオフィスで PC 画面と向き合い、スーパーの惣菜を電子レンジで温め、深夜まで TV をみて消灯といった不自然な日常となりがちです。そんな環境では、指向的集中による疲労に陥り、その結果、衝動的行動、苛立ち、焦燥感、注意力低下が現れるといいます。自然の中に身をおくと、でこぼこ道を歩いたり、急に動物がでてきたり、雨が降りそうだったり、感覚的集中になるため、同じ運動量でも心地よい疲労感となります。今回の体験を通し、日頃いかに感覚を閉ざして生活をしていたのか考える機会となりました。

これから医療は、ますます予防的、個別的になっていくでしょう。そんなときに東西の知恵を活かして、患者さんの価値観に向き合える医療を行うことがますます必要になると思われました。

